



令和 3 年 7 月 27 日
独立行政法人 国立科学博物館

「南方熊楠 菌類図譜 ～その整然と混沌～」 標本資料からみた情報提供者としての熊楠の物語を Web で公開

国立科学博物館(館長 篠田謙一)は、所蔵する「南方熊楠菌類彩色図譜」(以下、菌類図譜)のうち、代表的なものを取り上げ、その高精細画像データと、それらを活用した電子展示を核として構成される「南方熊楠デジタルアーカイブ」を矢田部良吉デジタルアーカイブに続く第二弾として公開しました。

このデジタルアーカイブにより、自然史や民俗学など幅広い分野で活躍した南方熊楠が収集した多数の菌類標本からなる菌類図譜へのアクセスが容易となるだけでなく、熊楠による菌類の整然とした記載、果てしない菌類の多様性を前にした混乱、そして菌類図譜に反映された熊楠の半生や当時の研究の状況までをご覧いただけます。デジタルアーカイブを通して、熊楠が作り上げた菌類図譜とは何なのか、熊楠が多くの人になぜ注目されるのかに思いをさせてみて下さい。そして、本日 7 月 27 日は、熊楠が結婚した日でもあります。このことは、菌類図譜にも関連した記述がありますので、是非、デジタルアーカイブの中から探してみてください。

南方熊楠
Kumagusu Minakata
1867-1941

[南方熊楠 菌類図譜 ～その整然と混沌～]

南方熊楠(1867～1941)は、自然史や民俗学など幅広い分野で資料を収集した人物で、日本における環境保護運動のきっかけをつくり、「エコロジー」という言葉を広めた人物としても知られています。熊楠は海外渡航から帰国した1901年以降、多数のきのこ標本を採集し、その標本で数千点の「南方熊楠菌類彩色図譜(以下菌類図譜)」を作成しました。菌類図譜は、熊楠の半生における行動や指向を知る上で貴重な資料であり、日記や他の資料と相互参照・利用するためにも国立科学博物館においてデジタルアーカイブ化が進められています。この電子展示では、多数ある菌類図譜の中から代表的なものを紹介し、熊楠が試みかけたこの多様性の理解を紹介します。

第一章 南方熊楠の生涯 > 第二章 日本の菌類の多様性 > 第三章 菌類図譜とは >

電子展示「南方熊楠 菌類図譜 ～その整然と混沌～」

<https://dex.kahaku.go.jp/kumagusu/>

S_F0726_#_01

菌番号 F.726

種別	第二集
作成者	南方熊楠
年代	1906-10-14
採集場所	田辺
学名	菌名: <i>Clavaria purpurea</i> Fr.
F.726.	On the ground, among moss under pines, Tanabe, Kii, leg. Mrs. K. Minakata (nec Matsue Tamura) October 14th, 1906 <i>Clavaria purpurea</i> (Muehl.) Fr.
その他詳細	Fasciculate, now connate at base, smell faint, branchless. Base arising from mycelium conglomerated with earth, elongated and fusiform with the tapering apex blunt, up to 9 cm. l., gradually thickened towards the middle, whereabout 3 mm. thick, subcylindrical or compressed with a channel, smooth, slightly noduloso-zonate, light opaque lilac, whitish below and with pure white very minute downs, more or less curved, inside pale lilac, stuffed then hollow, fleshy, fragile.

南方熊楠菌類彩色図譜の一例
採集者は熊楠夫人と記載

https://dex.kahaku.go.jp/kumagusu/archives/s_f0726_01

南方熊楠^{※1} は、多数の菌類標本を採集し、その標本をもとに数千点からなる「南方熊楠菌類彩色図譜」(以下、菌類図譜)を作成しました。菌類図譜は、熊楠の半生における行動や指向を知る上でも貴重な資料で、当館が所蔵していません。今回は、このうち 49 点の菌類図譜高精細画像とその翻刻データ^{※2}を、関連資料や、菌類の生態や多様性を紹介する高精細画像 21 点とともに国際標準規格である IIIF^{※3} の定める形式で公開しました。さらに、この公開データをもとに、熊楠による菌類多様性の理解と、熊楠の半生を紹介する電子展示も制作しました。この電子展示では、熊楠が残した資料の代表とも言える菌類図譜の高精細画像、記載内容の翻刻だけでなく、専門家によるコメントを閲覧いただき、資料とその意義を見ていただけます。熊楠の半生については、当館所蔵の資料だけでなく、南方熊楠顕彰館 (<https://www.minakata.org/>) 所蔵の資料も用いて浮き彫りにしています。また、残りの菌類図譜についても、現在、データベース化を進めています。

※1 南方熊楠(1867 年生まれ、1941 年没)は、多様な対象を探求した研究者として紹介されてきました。しかし、近年では、特に自然史や民俗学などの分野で広く資料を収集し、蓄積し、まとめ上げてきた実績がより評価されています。

※2 翻刻(ほんこく)とは、古典籍や古文書などに記されたくずし字を読み、現代の文字に変換する作業です。

※3 IIIFとは、International Image Interoperability Framework の略称で、さまざまな資料保存機関が公開するインターネット上の画像を共通の方法で閲覧・利用可能にするといった国際的なコミュニティ活動をおこなっています。画像へのアクセス方法の標準化や、画像を束ねた資料構造などの標準化を進めており、これにより画像引用などの相互利用性(interoperability)が大幅に向上します。

今回公開するデジタルアーカイブは、南方熊楠に関連する資料をIIIFの定める形式に整理した科博 IIIF データセット (<https://iiif.kahaku.go.jp/list/>) と、それを核として制作された電子展示「南方熊楠 菌類図譜 ～その整然と混沌～」 (<https://dex.kahaku.go.jp/kumagusu/>) で構成されています。この二つは、個々の資料の画像と情報をユーザーが広く利用可能な形式で提供する一方で、それらの中からピックアップした資料を意味のある順序で並べ、専門家の解説とともに閲覧できる仕組みを提供するものです。これによって、資料を解釈する入り口としての展示と、その後の利用のためのデータセットの両方を、幅広く活用していただけます。

今後も、国立科学博物館は新たなデジタルアーカイブの構築とそれを利用した研究や展示手法の可能性について、検討してまいります。

【公開 Web サイト】

電子展示「南方熊楠 菌類図譜 ～その整然と混沌～」

<https://dex.kahaku.go.jp/kumagusu/>

【電子展示・データセット作成】

独立行政法人国立科学博物館 植物研究部 部長

細矢 剛(ほそや つよし)

【問い合わせ先】

独立行政法人国立科学博物館

科学系博物館イノベーションセンター

マーケティング・コンテンツグループ

デジタルコンテンツ担当 中島、倉島

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

Tel: 03-5814-9158 Fax: 03-5814-9899

E-Mail: xr-contents@kahaku.go.jp

(担当研究者)

植物研究部 部長 細矢剛